

- ①ポジション②自分の野球の持ち味
- ③自分の課題、これからの目標



ひろと
赤穂 大翔(3年生)

- ①ショート (主将)
- ②守備は、たくさん動き回れている。バッティングでは、場面を考えて対応できるようにしている。
- ③体幹を鍛えてフィジカルの強い選手になりたい。四国大会出場を目指していきたい。



高須賀 ころ(3年生)

- ①右翼手
- ②バントが得意。
- ③県大会で出た自分の後ろに飛ぶ打球をしっかりと守備で取れるようになること。打撃では、自分に回ってきたときにバントをしっかりと決めていきたい。



「目標としているベスト4に入れました。コロナ禍で全員で練習する時間が取れませんでした。しかし、一人ひとりが自主練に励んできたので、団結して試合に臨むことができました。練習では、ここぞという場面で使える勝負力をつけてきました。チャンスの場面で、誰がバッターで回っても、ファーストストライクから狙える積極的なプレーをチーム全体で共有しました」と話した。

川内中学校には3人の女子選手が在籍。馬越監督は「未経験の子たちもいるが特別扱いしている訳ではなく、一緒に練習している。男子と同じように指導しても付いてきている」と話す。「初めは、男子との違いを感じていましたが、練習の中で全員がライバルだと思えて、諦める気持ちがない」と話した。

男女の差をつけない



みみ
重松 美光(3年生)

- ①右翼手
- ②女子野球の練習にも参加しているので、外野の守備がうまくなった。
- ③バッティングでインコースやバントに苦手意識があるので、家で素振りをして頑張りたい。



はつせ
八木 初瀬(3年生)

- ①左翼手
- ②足が速いこと、打撃が持ち味。
- ③追い込まれた後のボールの対応と出されたサインをしっかりと覚えること。目標は、総体で四国大会に行くこと。



ゆうと
藤尾 悠音(3年生)

- ①二塁手
- ②小技が得意。
- ③守備に課題を感じる。安定した守備ができないので、普段の練習でたくさんノックを受けて守備を安定させていきたい。



ひでと
近藤 秀斗(3年生)

- ①捕手
- ②バッティング。筋力が一番の持ち味。
- ③配球があまりできず、試合中は仲間に助けってもらうことがあるので、自分で考えてセカンド送球や盗塁なども指示していきたい。



こうた
戸田 航太(3年生)

- ①投手、中堅手
- ②足が速いので足の速さを活かして積極的な走塁ができること。
- ③投手として、変化球に課題があるので変化球をもっとよくしていきたい。

勝負力の正体

Kawauchi baseball club

県大会3位の栄光

「私たちは今日、楽しみにしていた大会を迎えることができました。応援してくださる皆様に感謝し、ここにいる選手全員が、必ず最後まで諦めず、はつらつとしたプレーをすることを誓います」。川内中学校軟式野球部主将の赤穂大翔選手が選手宣誓で第39回全日本少年軟式野球愛媛県大会が始まった。

2月26日から行われた同大会中予ブロック大会。31チームが6ブロックに分かれ、トーナメント形式で対戦する。県大会に出場できるのは、ブロック内で優勝したわずか6チーム。各チームが勝敗を競い合う中、川内中学校軟式野球部はEブロックを制し、県大会へと駒を進めた。

3月27日、県大会が始まり県内から16チームが集った。初戦の相手は土居中学校。試合が動いたのは3回表。1死から田井選手が二塁打を放つ

と、続く戸田選手がレフト方向に先制打を放つ。続く5回にも1死1塁で迎えた戸田選手の打球が相手のエラーを誘い追加点となった。その後5回裏に2点を返されるとそのまま試合は動かず、8回からタイブレーク方式の延長戦に突入。持ち前の守備力を発揮し8回に互いに2点を取り合い、4対4で迎えた9回、2死1、2塁で打席を迎えた田井選手が放ったセンター方向への二塁打が決定打となった。守りでは、戸田投手と田村投手が安定した制球力で相手打線を5安打に抑え、バックを守る野手陣もノーエラーで好投に迎え、2点差を守り抜いて6対4で勝利。2回戦への切符を手にした。その後2回戦、3回戦へと順調に勝ち進み、3回戦では惜しくも敗れたが、チームは3位の栄光に輝いた。

気付きを大切に

県大会終了後、赤穂主将は



つばさ
曾我部 羽 (2年生)

- ①三塁手
- ②力強いボールが投げられること。
- ③ボールに対しての反応が遅いので直していきたい。まずは、3年生が出場する総体を全力で頑張っていきたい。



たいが
古川 大賀 (2年生)

- ①外野手
- ②ボールが飛んできたときに、走って取りに行くか、引いて取りに行くかを判断できること。
- ③しっかりと基本を身につけて、エラーをなくしていきたい。外野でなるべく早くレギュラーを獲りたい。



1_誰がグラウンドに立っても積極的なプレーを心掛ける/2_観客にチームの勝利と感謝を伝える/3_日頃の走り込みが活かされる瞬間/4_ゲームの流れを見極めて球を打つ



野球部の目指す先

県大会終了後の翌日には、次に向けて練習が始まった。赤穂主将は、「3位を獲得したときは、もう一つ勝ちが取れたんじゃないかという後悔の気持ちが残った。次の目標は、四国総体の切符を取るために県総体で優勝、準優勝を目指したい」
日々の目標を書くホワイトボードには「四国大会出場」の文字がしっかりと記されている。4月には1年生も入部し、さらなる飛躍を期待できる。川内中学校軟式野球部の挑戦にこれからも注目だ。



ゆうや
田井 佑弥 (2年生)

- ①中堅手、右翼手
- ②足が速い。1球目から積極的にストライクを振っていけること。
- ③試合になると力むことがあるので、落ち着いて冷静に判断をしたい。卒業した先輩の背中に追いつけるように頑張りたい。



れおな
山崎 怜央奈 (2年生)

- ①左翼手
- ②ベンチで応援するときにみんなを支えること、チームのムードメーカーとして盛り上げられる。
- ③試合に出て、守備で落ち着いてプレーしたい。そして、みんなのために役に立てるように頑張りたい。



1_第39回全日本少年軟式野球愛媛県大会。攻める姿勢で挑む/2_試合中に監督の指示を受ける/3_ベンチから仲間に熱い声援を送る/4_守りでは一人ひとりが落ち着いて確実に1死を狙う



「部員全員がライバル」その言葉で3年間続けてきた。お互い切磋琢磨しながら練習を重ねる。くくなりました。今は男子のレベルにも追いついてきていると感じ、自信になってきました」と重松さん。「球場から見える景色に憧れて入部しました。未経験で何も分からずに入っただけで、先生や先輩、同級生が優しく、ライバルでも仲が良いことが川内中学校野球部のいいところ」と高須賀さんは話す。「先輩や仲間、先生に支えられて、自分が楽しめる居場所ができました。他の部活では味わえない経験が、自分自身を成長させてくれました」と大和さんは話す。3人の野球に対して真っ直ぐな姿勢が言葉や表情で読み取れる。



かずなり
西久保 和成 (2年生)

- ①一塁手
- ②足が速いこと
- ③守備が安定していないので、しっかりとって、チームの役に立ちたい。川内中学校野球部の中で守備もバッターとしても1番になれるような技術を身に付けたい。



ひなた
田村 陽向 (2年生)

- ①投手、三塁手
- ②コントロールがいいところ、小技ができること。
- ③バッティングでもっと活躍したい。自分の力をもっと上げて、チーム目標の四国大会への出場を目指したい。

女子メンバー
women's baseball



「部員全員がライバル」その言葉で3年間続けてきた。お互い切磋琢磨しながら練習を重ねる。



かれん
大和 加蓮 (3年生)

- ①右翼手
- ②大きな声を出すこと、バントができること。
- ③初めからスタメンとして出ていきたいので、打撃や守備を分析し練習で克服して、試合で一本出して活躍したい。